



真剣な表情で実験に取り組む高校生  
＝徳島大蔵本キャンパス

遺伝子組み換え  
高校生が実験

徳島大で講習会

高校生が遺伝子組み換え技術を学ぶ「組み換えDNA実験講習会」が二十九日、徳島大学蔵本キャンパスの疾患ゲノム研究センターで始まった。理科離れ対策として文部科学省が進める「サイエンス・パートナーシップ

・プログラム」の一環で、今年で四年目。県内八高校の十八人が参加。センターの高浜洋介教授から遺伝子組み換えの基礎知識を教わった後、グループに分かれて発光する大腸菌をつくる実験に挑戦。職員や院生から指導を受けながら、クラゲの発光遺伝子を大腸菌に組み込んで培養する作業に取り組んだ。

講習会は二日間。三日は「すごい機械ばかりで日は一晩培養した大腸菌の变化を観察する。川島は「すごい機械ばかりで少し戸惑ったけど、明日の実験結果が楽しみ」と話した。